

別紙様式 1

令和 5 年度白岳中学校区研究推進計画

校番 (3) (白岳小) 学校

校長名 奥井 京子

1 学校教育目標

夢や目標に向かって 粘り強く頑張る児童を育てる
 - 夢や目標への自律的挑戦 -

2 目指す児童生徒像

- ・しっかり話を聞き，相手や目的を明確にして，自分の考えを表現する児童・生徒
- ・他者との関わり合いを通して，自分や他者のよいところを見つめ，問題を解決したり考えを深めたりする児童・生徒
- ・心と体の健康に必要なことを考え，実践できる児童・生徒
- ・将来の「なりたい自分」をイメージし，そのための手立てを考え，実行できる児童・生徒

3 育成を目指す資質・能力（具体の姿）

資質・ 設定した 能力	知識及び技能	思考力，判断力，表現力等	学びに向かう力，人間性等
	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性
後期	社会生活に必要な知識・技能を習得し，あらゆる場面で活用できる。	他者と協働して考えを深め，分かりやすく自分の考えを表現できる。	よりよい社会を実現するために，身近な集団との関わり方を考え，積極的に行動できる。
中期	社会生活に必要な知識・技能を習得し，学校生活や日常生活で活用できる。	多様な考えを認め，相手に応じて伝え方を工夫することができる。	縦のつながりや横のつながりの中で，物事を多角的に捉え，自己の生活に生かすことができる。
前期	社会生活に必要な知識・技能を習得し，学校生活や日常生活につなげることができる。	自分の考えをもち，様々な表現方法でまとめたり伝えたりすることができる。	友達や家族，地域の人たちと関わり，色々な思いや考え方に気付き，自己の力を伸ばすことができる。

4 研究主題等

(1) 研究主題

主体的に学び，考えを深め合う児童・生徒の育成

～『課題設定・学び合い・振り返り』を充実させた授業づくりを通して～

(2) 設定理由（校区の児童生徒の課題分析等）

昨年度まで，研究主題を「主体的に学び，考えを深め合う児童・生徒の育成」と設定し，白岳中学校区では，「学びを深める」を軸に，グループで考え方を共有する取組を行った。その結果，2学期に行った児童生徒アンケートの「授業の内容が理解できる」（中学校）「授業の内容が分かる」（小学校）の項目において，昨年度は小中ともに肯定的回答割合が90%を超え，一定の成果が得られた。

一方で，ロイロノート等で自分の考えや意見を発信したり，互いの考えに質問をすることはできるが，自分で課題を設定し，相手の考えを取り入れてさらに考えを深めたり，まとめたりという質の高まりは，十分には見られなかった。また，生活習慣振り返りカードの結果から生活習慣が定着していないこと，さらには広島県児童・生徒学習意識等調査の結果から

は自己効力感が低い児童・生徒実態であることが課題として見えてきた。つまり、集団の中で思いを伝え、認め合える人間関係づくりが必要であるといえる。

令和4年度に実施した全国学力・学習状況調査の結果では、小学校の平均正答率は、国語科では対全国比10.4ポイント、算数科では5.8ポイント、理科では8.7ポイント上回っている。しかし、国語科では「文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、感想や意見を基に、自分の文章のよいところをまとめて書く」こと、算数科では「百分率で表された割合について、数量が変わっても割合は変わらないことを理解する」こと、理科では「実験で得た結果を、問題の視点で分析して解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述すること」に課題が見られる。これらのことから、情報を活用して考えたことを自分の言葉で表現する力や物事を多面的・多角的に捉える力を伸ばす必要があることが分かった。

令和4年度に実施した全国学力・学習状況調査の結果では、小学校の平均正答率は、国語科では対全国比10.4ポイント、算数科では5.8ポイント、理科では8.7ポイント上回っている。しかし、国語科では「文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、感想や意見を基に、自分の文章のよいところをまとめて書く」こと、算数科では「百分率で表された割合について、数量が変わっても割合は変わらないことを理解する」こと、理科では「実験で得た結果を、問題の視点で分析して解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述すること」に課題が見られる。これらのことから、情報を活用して考えたことを自分の言葉で表現する力や物事を多面的・多角的に捉える力を伸ばす必要があることが分かった。中学校では平均正答率は国語では対全国比4.0ポイント、数学は6.0ポイント上回り、各項目においても「話し合いや話題の方向性を捉えて、話す内容を考える」は7.7ポイント上回るなどの成果は見られるが、「話し合いの話題や方向を捉える」は0.5ポイント下回るなど、大きな流れを汲み取る力に若干の課題が見られる。

これらの実態をふまえ、今年度も、昨年度と同じく授業改善と学習観の改善を進める「学力向上部」と、学習の基盤となる「人間関係づくり」や「健康づくり」を進める「生活向上部」の2つの部会を引き続き設定した。主体的な学び、深い学びを軸に、各部会ともに、3つの資質・能力を活用し身に付けさせながら、課題を設定し、自らの考えを深め合う児童・生徒を育成したいと考え、研究テーマを設定した。

(3) 研究仮説

「つけたい資質・能力」を意識し、個の学びを土台としたグループ学習やICT機器等の活用を通して「学び合いを大切に授業」を充実させていけば、主体的に学び、考えを深め合う児童・生徒を育てることができるであろう。

5 研究内容

ア 教師が付けたい力と評価方法を明確にする取組

- ・ 教師が、本単元で育成したい資質・能力を設定
- ・ 本時のゴールで目指す児童・生徒の姿や、どこでどのように評価するかを具体化

イ 課題設定の充実を図る取組

- ・ 児童・生徒が学習の課題、本時のめあてについて自分のこととしてとらえ主体的な学びへ導く工夫
- ・ 教師、児童・生徒ともに本時の授業のゴールで目指す姿を明確にイメージできる工夫

ウ 「学び合い」の充実を図る取組

- ・ 一人でじっくり考える場(自力解決)、自分の考えを伝える、友達の見解と比べる、自分の考えを広げたり深めたりする場(集団解決)の設定
- ・ ICTの効果的な活用
- ・ 意図的な切り返し発問や児童・生徒のつなぎ発言など、思考を広げる、深める話し合いにする工夫

エ 「振り返り」の充実を図る取組

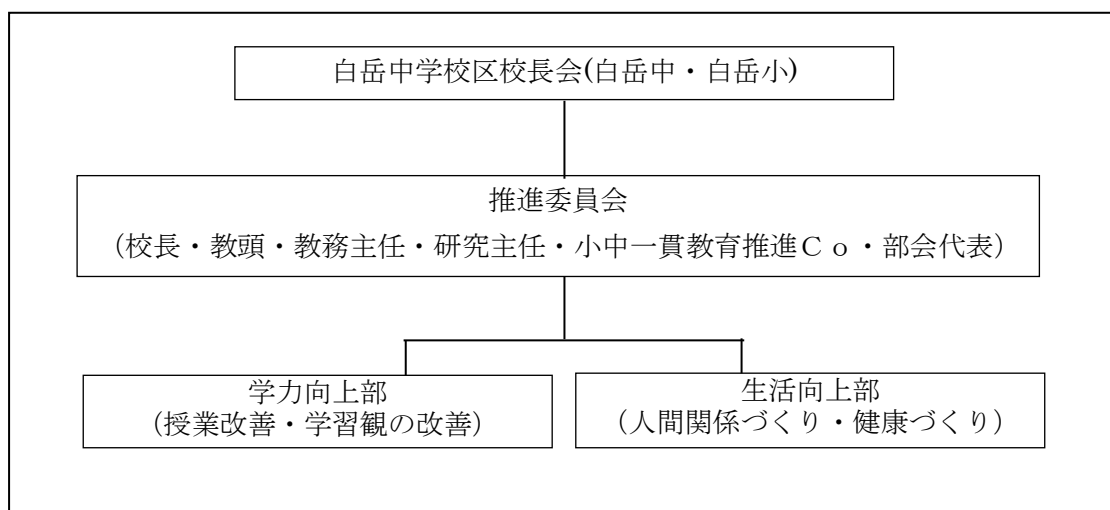
- ・ 「大切」「振り返り」を確実に挙る授業設計
- ・ 「振り返り」の視点や振り返りの内容の共有
- ・ 個に応じた基礎学力や応用力の定着を図るためのキュービナ活用

6 検証について

検証の視点	方法	検証の指標	現状値	達成目標
① 授業がよく分かると児童・生徒が実感できたか。	児童・生徒アンケート	児童・生徒の肯定的評価	小 94% 中 94%	80%
② 学び合いを大切にしたい授業を創造することができたか。	授業評価票	研究授業における教職員の相互評価値	小 3.4 中 3.4	3.2以上
	教師アンケート	教職員の肯定的評価	中 3.6	3.2以上
③ 児童・生徒の学力が定着したか。	国語科における1学期末, 2学期末のまとめテスト	国語科「思考・判断・表現」の通過率	小 85.5% 中 71.1%	75%
	算数科における1学期末, 2学期末のまとめテスト	算数科「知識・技能」の通過率 「思考・判断・表現」の通過率	小 90% 小 77%	80% 70%

7 推進体制等

(1) 推進組織



(2) 一部教科担任制実施計画

ア 乗り入れ授業等 (中→小, 小→中)

(中→小)

- ・小学校第6学年 算数科
- ・小学校第5学年 算数科

(小→中)

- ・中学校第2学年 家庭科
- ・中学校第3学年 学級活動

イ 小学校教科担任制等

- ・音楽専科 (5年, 6年)
- ・理科専科 (5年, 6年)
- ・書写専科 (3年, 4年, 6年, 1-1)
- ・家庭科専科 (6年)
- ・図工専科 (3年, 4年, 5年, 6年)
- ・社会科専科 (6年)
- ・体育専科 (6年)

8 推進計画

月 日	内容	
	白岳中	白岳小
4月4日	全体研修	
5月26日	第1回推進委員会	
6月2日	授業研究（4年）国語科 安田女子大学 教授 田中 宏幸	
6月13日	第1回全体協議会（中1授業参観）	
8月3日	第2回推進委員会 第2回全体協議会	
（2学期 未定）	授業研究（中1）保健体育科	
11月1日	授業研究（ 年） 安田女子大学 教授 田中 宏幸	
11月7日	白岳中オープンスクール	
12月6日	広地区クリーン活動 予定（日時は未定）	
1月19日	第3回推進委員会	
2月16日	第3回全体協議会（小6授業参観）	

9 その他

※ 研究構想図、カリキュラムマップを添付する。